

『たっち』は、みんなの心や輝きへの「タッチ」を通して、「たちかわ」の地域・家庭・学校が手をつないで、生涯を通じた学びを推進したいという思いを込めて付けた名前です。

たっちの発行は年3回です。次号の発行は令和4年2月10日です。

たっち

立川市教育だより

●今号の主な内容
2面 … 感染予防/キラリ・プラス/スキー移動教室代替行事/令和4年度以降使用の中学校図書の採択
3面 … 歴史民俗資料館/アール・ブリュット立川
4面 … 全児童・生徒に電子図書館利用カード配布/立川市の歴史と文化財
編集・発行/立川市教育委員会
〒190-8666 立川市泉町1156-9
☎042(523)2111(市役所代表)
立川市ホームページ
<https://www.city.tachikawa.lg.jp/>



第7回

立川市・大町市姉妹都市交流「中学生サミット」を開催

令和3年9月18日(土)に、平成27年度の第1回から数えて7回目となる立川市・大町市姉妹都市交流「中学生サミット」を開催しました。

今回のサミットは立川市の中学生が大町市を訪問し、様々な体験活動をする方向で最後まで調整しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で2年連続のオンラインでの開催となりました。

今回の中学生サミットでは、平成27年度に策定した下記の共同宣言をもとに、「立川市の中学生が語る大町市」「新たな中学校生活の創造」について意見交換を行い、有意義な交流を持つことができました。

この交流の内容や成果については、令和4年2月の立川教育フォーラムで生徒たちが発表する予定です。

問指導課・内線2499



立川市・大町市姉妹都市中学生サミット 共同宣言

- 一つ、私たちは この中学生サミットを通し、これからも立川市と大町市の交流をより深め、他の地域に発信していくことを誓います。
- 一つ、私たちは 両市の未来、都市と農村の共存について考え続けていくことを誓います。
- 一つ、私たちは 交流活動を通して得た、互いの市の特徴を生かし、さらなる発展に努めることを誓います。
- 一つ、私たちは 離れていても互いの助け合いの心を忘れないことを誓います。

長野県の北西部に位置する大町市は、雄大な北アルプスに囲まれた自然豊かなまちです。市街地の標高は700メートル余り。北アルプスの山々を映す仁科三湖やダム湖があり、豊富な温泉にも恵まれ、立山黒部アルペンルートの玄関口としても知られています。



立川市



大町市



立川市キャラクター
くるりん



大町市キャラクター
おおまびよん

中学生サミットの経緯と交流内容

大町市と立川市は平成3年3月25日に姉妹都市の締結を行い、今年で30周年を迎えました。中学生サミットは、平成26年の大町市政施行60周年記念式典に立川市の中学校の吹奏楽部が参加したことを契機に、平成27年度から大町市、立川市と交互に訪問しています。参加した生徒は自然体験やまち歩きなどの活動を通して、多角的視野をもち、郷土やまちのよさを再発見するとともに、よりよいまちづくりに向けて互いに学びを深めています。

感染予防に努めましょう

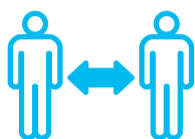
新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行に備えて

インフルエンザが流行する時期を迎えます。新型コロナウイルス感染症との同時流行が心配されていますが、予防方法は基本的に同じです。これまで実践してきた予防の習慣をより一層心掛けて、感染予防に努めましょう。

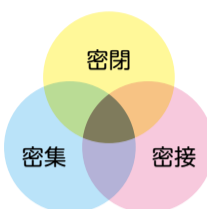
手洗い・検温・マスクの着用



人と人との距離を保とう



「3つの密」を避けよう



食事



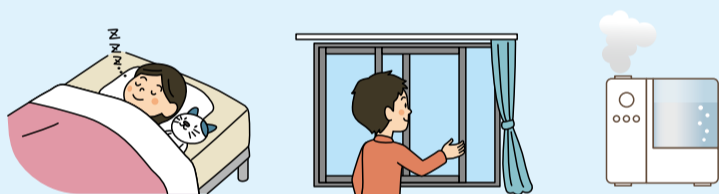
食べている時のおしゃべりは控えましょう。

野外活動



公園などで遊ぶときは、すいている時間、場所を選びましょう。

健康管理を心がける



- 睡眠をしっかりとって体の抵抗力を高めましょう。
- 窓を開けてこまめに換気をしましょう。
- 適切な湿度(50%~60%)を保ちましょう。

☎ 学務課学校保健係・内線2515

キラリ・プラスで目標に向けてがんばっています

「キラリ」「プラス」は、小・中学校全校に設置している特別支援教室の愛称です(小学校はキラリ、中学校はプラス)。キラリ・プラスでは、発達障害の特性などによって、学習やコミュニケーションに困難さを感じている子どもたちが、それぞれの特性に応じた学習の方法やコミュニケーションスキルを身に付けるための指導・支援を行っています。

子どもたちは、一人ひとりに設定した目標に向けた1対1や小集団での指導で、例えば、漢字の覚え方や計算の流れのとらえ方、集中力を保つ工夫などを学んだり、自分の行動や考え方を見直す取組をしたりして、できること、分かることを増やし、自信をもって授業やクラスでの活動に取り組めるよう、力をつけていっています。

キラリ・プラスでの指導を受けるため、週に1回程度、在籍学級の授業を1時間から2時間抜けることとなりますが、クラスメイトもそのことを自然に受け止め、「キラリに行ってくるね」「がんばってきてね」と送り出しています。

キラリの様子



プラスの様子



令和4年度から「原則の指導期間」が設けられます

キラリ・プラスは一定の期間で目標を達成して指導を終え、すべての時間を在籍学級での指導・支援で学ぶことを目指す場です。令和4年度から、この「一定の期間」を明確にした「原則の指導期間」が設けられることになりました。原則の指導期間は、学年の初め(4月)から指導が始まった場合はその学年末まで、学年の途中から始まった場合は次の学年末までとされています。

子どもたち一人ひとりによりそい、適切な目標を設定したうえで、日常的な在籍学級における学びにつながるよう指導・支援を行っていきます。

☎ 教育支援課 ☎ (506)0018

スキー移動教室(令和2年度中止)代替行事

令和3年度市立中学校第2学年の旅行先について

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、毎年実施している中学校第1学年のスキー移動教室も実施を見送りました。

今後の社会情勢を注視しながらの実施となりますが、今年度その代替行事を行います。

学校名	実施日	旅行先
一中	令和4年1月21日(金)	相模湖リゾート プレジャーフォレスト
二中	令和3年11月2日(火)	富岡製糸場、こんにやくパーク、群馬サファリパーク
三中	令和4年1月21日(金)	富士サファリパーク
四中	令和3年12月3日(金)	鎌倉駅周辺校外遠足
五中	令和3年11月19日(金)	上野公園
六中	令和3年11月5日(金)	鎌倉駅周辺校外遠足
七中	令和4年1月28日(金)	鎌倉駅周辺校外遠足
八中	令和3年11月26日(金)	鎌倉駅周辺校外遠足
九中	令和4年3月23日(水)	よみうりランド

☎ 指導課・内線2134

教育委員の活動を紹介します

教育委員の令和3年5月~9月までの活動は下表の通りです。

活動実績(令和3年5月~9月)

5月6日(木)	第9回教育委員会定例会
5月27日(木)	第10回教育委員会定例会
6月11日(金)	第11回教育委員会定例会
	第1回総合教育会議
6月23日(水)	第12回教育委員会定例会
6月29日(火)	第2回教育委員会臨時会
7月8日(木)	第13回教育委員会定例会
7月29日(木)	第14回教育委員会定例会
8月5日(木)	第15回教育委員会定例会
8月26日(木)	第16回教育委員会定例会
9月9日(木)	第17回教育委員会定例会
9月28日(火)	第18回教育委員会定例会

☎ 教育総務課庶務係・内線2465

令和4年度以降に市立中学校で使用する社会(歴史的分野)の教科書を採択しました

市教育委員会は、令和3年8月26日(木)に開催した教育委員会定例会において、令和4年度から令和6年度まで市立中学校で使用する社会(歴史的分野)の教科書を下表のとおり採択しました。

採択に当たっては、現場の先生方による選定検討委員会や調査研究部会の検討などを参考に、立川市の教育に適した教科書を決定しました。

市立中学校教科書採択発行者	
種目	発行者
社会(歴史的分野)	東京書籍株式会社

☎ 指導課指導係・内線2488

地元の歴史を楽しもう!!

立川市歴史民俗資料館



常設展示・企画展

常設展示室では、立川市の成り立ちや暮らし、自然に関する資料を紹介し、特別展示室では、テーマを絞った企画展を定期的に開催しています。そのほか季節の行事にあわせ、桃の節句や端午の節句の人形、まゆ玉や十五夜のお飾り、懐かしい写真によるミニ企画展も開催しています。



講座・体験学習事業

地域の歴史や文化を学ぶ講演会、史跡や文化財等を巡る散策会、身近な動植物を知る自然観察会のほか、昔ながらの生活や風習を体験学習する事業として、ボランティア団体と協働して手打ちうどん作り、餅つき、機織りなどを開催しています。



教育支援活動

資料館職員が学校を訪問し、収集資料を活用して授業を行う出張講座を設けています。少し昔の生活用品、農機具、縄文土器や石器などの実物を見て触り、郷土の歴史や文化を学習するプログラムなど、学校教育への支援を行っています。



立川市歴史民俗資料館

歴史民俗資料館は立川の歴史、民俗および自然風土に関する資料を収集・保管・展示して、郷土文化の保存継承と、地域社会への理解を深めることを目的に設置された社会教育施設です。

「蔵」をイメージした本館は、昭和60年に開館して以来、地域の文化財を保護する拠点としての役割を担っています。庭園には土蔵や井戸を保存し、雑木や草花が楽しめる散策路を整備しています。

利用案内 開館時間／午前9時～午後4時30分・休館日／月曜日および年末年始(12月29日～1月3日、月曜日が国民の祝日または、その振替休日にあたる場合はその翌日)・入館料／無料

所在地・連絡先 〒190-0013 立川市富士見町3-12-34 ☎(525)0860 Fax(525)1236

交通案内 JR青梅線西立川駅より徒歩20分／JR立川駅南口からバス(新道福島行・富士見町操車場行)「団地西」下車徒歩5分

立川市歴史民俗資料館
公式 Twitter
開設しています!!

企画展や体験学習などの資料館・古民家園のイベントのほか、立川市内の歴史や自然のことなど、色々な情報を発信していきます!



@tachikawa_rekim

アール・ブリュット立川 ~高松からの風~ 関高松学習館 ☎(527)0014

アール・ブリュット立川実行委員会との共催で地域の方の作品も含めた作品を高松学習館で9月1日(水)～9月14日(火)まで展示しました。

会場には特設フォトスポットも設置され、来訪者が楽しく記念写真を撮られていました。

今年も感染症対策でさわれる展示はありませんでしたが、来場者からは「一人ひとりの個性、エネルギーに圧倒され感動しました。発想のユニークさ繊密な作業…本当に素晴らしいです」といった声が寄せられました。

高松図書館では関連図書のミニ展示とリサイクル本の配布も実施しました。



展示期間中に実施した事業

■ワークショップ

「トレーシングペーパーで表現する花空間」

みんな違ってみんないい! 個性的なすてきな作品ができました。参加者からは「色えんぴつを使い、自由に色を塗るのは意外に難しかったですが、やっているうちに慣れて力が抜けうまくできました。トレーシングペーパーをちぎる感覚もおもしろかったです。花、草、空、海などいろいろなイメージがわいてくるプログラムだと思いました」といった声がありました。

東京学芸大学の学生さんと「世代間交流」を目的として「かわせみカフェ」を開催します。企画・運営は幸学習館運営協議会。防災をテーマにマイタイムライン(防災行動計画)を作るワークショップを行います。工作コーナーではペットボトルでランタンを作り、昔遊びコーナーではけん玉やコマで遊びます。なお、感染症対策を行って開催します。会場内での飲食はできませんので、ご了承ください。直接会場へ



昨年度の「かわせみカフェ」の様子

幸学習館 ☎(534) 3076

市立小・中学校の全児童・生徒に電子図書館利用カードを配布



立川市図書館は、9月14日(火)から、国の「GIGAスクール構想」に基づいて市から貸与されたタブレットPCを使い、市立小・中学校の全児童・生徒が、市図書館の「たちかわ電子図書館」の電子書籍を活用する取組を始めています。

そこで、さらなる利用促進のため1人3点まで14日間借りられる「学校用たちかわ電子図書館利用カード」を作成し、全児童・生徒に配布しました。

各学校では、IDやパスワードの登録のほか、電子書籍の借り方や利用の仕方を指導しています。

「たちかわ電子図書館」の蔵書点数は約5千点、うち児童書は3千点ほどで、学校での読書活動や家庭での読書機会の確保を目的に、ライトノベル、絵本、絵どうわといった読みもののほか、図鑑やドリル、参考書といった学習支援に役立つ本などをそろえています。市図書館では、「読書を楽しむと同時に、学ぶ意欲につなげたい」と普及に期待しています。

また、授業の中でも、一部の学校においてタブレットPCを使用した朝読書や、黒板横の大型モニターに図鑑を拡大表示するなどして活用しています。

カード表面



カード裏面



朝読書の風景



立川第三中学校3年生の教室

利用カードの登録風景

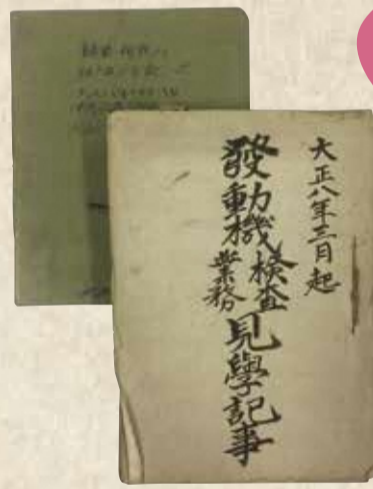


若葉台小学校5年生の教室

このような市立小・中学校全校での図書館の電子書籍の活用に向けた取組は、全国でも数例、東京都では初めてとなります。

中央図書館児童青少年サービス係 ☎(528) 6800

飛行機への夢——立川飛行場と技師の記録——



留学技術者の業務見学記録と帰航時の日記(大正8年)

スタジオリブリ制作の長編アニメーション映画作品『風立ちぬ』(宮崎駿監督、平成25(2013)年公開)をご覧になったことはあるでしょうか。本作では、小説家・堀辰雄の同名小説と航空技術者・堀越二郎の半生を主な題材に、関東大震災から第二次世界大戦へ向かう激動の時代のなか、若き技術者・堀越が飛行機造りに情熱を注ぐ、ひたむきな姿が描かれています。作品の中盤、大学を卒業した堀越は飛行機開発を行う企業へ就職し、最先端の技術を学ぶためにドイツへ派遣されます。第一次世界大戦後、飛行機の有用性が広まり需要が高まると、欧米を中心に航空技術の研究・開発競争が繰り広げられました。しかし、飛行機開発の後進国であった日本は、ヨーロッパ各国へ技術者を派遣することで最新の情報を得ていました。立川にもこのような技術者が集まり、飛行機の研究開発が行われた時代がありました。大正10(1921)年に立川飛行場の建設が決定し、翌年に完成した飛行場に陸軍飛行第五大隊が岐阜県各務ヶ原より移駐したことで、立川には陸軍関係のほか民間の飛行機製造の企業や航空会社も集まりました。その関係者が各地から転入し、急増した人口により大正12(1923)年には町制が、昭和15(1940)年には市制が施行されるほど、立川の街は急速に発展を遂げます。

当館が所蔵する資料のなかにも、飛行機開発技術者旧蔵の資料があります。大正8(1919)年に陸軍航空部所属の「職工」としてイタリアを中心に、フランス、イギリスを視察した技術者の史

料によれば、イタリアでは「飛行学校二於ケル一般実習」、フランスでは「発動機検査業務見学」を行っていたことが分かります(発動機は飛行機のプロペラエンジンを指します)。検査業務報告書のなかでは、フランスと日本の検査形式を比較して「日本ニ於テモ検査ノ方法ヲ定メテ検査ヲ厳密ニ遣ルト云フ必要ガアルト思ヒマス、之ニ対シテ仏国テ最良ト信セラレ居ル方法ヲ御伝ヘ致ス積リデアリマス」と記されており、技術先進国から貪欲に学び取るうとする姿勢が読み取れます。

この技術者が所属した陸軍航空部は大正8年に所沢飛行場に設立された陸軍の下部組織で、航空関連の調査・研究や教育、器材の製造・修理などを掌りました。大正14(1925)年には陸軍航空本部と名称を変え、昭和3年には技術部が、昭和8(1933)年には補給部所沢支部が立川へ移転します(昭和10(1935)年に技術部は陸軍航空技術研究所に、補給部立川支部は立川陸軍航空支廠にそれぞれ昇格、独立します)。また、昭和15年には陸軍航空本部の飛行機製造工場として陸軍航空工廠が発足するなど、立川飛行場周辺には航空関係の技術者が多く集まっていました。

現在、立川飛行場があった跡地は国営昭和記念公園などになっており、JR西立川駅東側にある踏切の名称「航空支庁前踏切」「航空支庁西門踏切」が、かつてそこに飛行機開発の最前線があったことをひそかに今に伝えています。

歴史民俗資料館では、12月12日(日)まで、これらの資料を展示した企画展「立川飛行場と陸軍航空本部——ある技師の記録——」を開催中です。近年、立川飛行場や基地跡地の開発が着々と進んでいます。立川飛行場の建設が決まって今年で100年となるこの機会に、「空の都」立川の街で飛行機開発の一線にいた技術者の資料などをもとに、立川飛行場の歴史を振り返ります。技術者たちが飛行機開発という夢を抱いて集った往時の立川飛行場に思いを馳せてみませんか。

歴史民俗資料館(生涯学習推進センター)文化財係 ☎(525) 0860